

佐用町昆虫館がオープン

こどもとむしの秘密基地 発進



標本をモデルに昆虫の絵
をかく子どもたち (4月11日)

4月4日に開館式が行われ、新たなスタートをきった昆虫館。昨年3月末で閉館していた同館は、今後町立の施設として、「NPO法人こどもとむしの会」のみなさんと運営され、子どもたちの環境学習や地域活性化に力が注がれます。

生まれ変わった昆虫館 新たな門出を祝う

4月4日の開館式には、NPO法人会員のかたがたや三河地域のみなさんなど約40人が参加しました。まず、三河小学校の新庄未歩さん、井上幹太くん、春名風夏さん、大江峻弘くん、春名弘登くんが参加してテープカットが行われた後、土地提供者の船越山瑠璃寺の大江秀謙さんなどに庵辻町長から感謝状が贈られました。

開館式終了後、NPO法人による館内説明と、子ども向けのイベントが行われるなど、昆虫館は開館を祝う雰囲気になっていました。

これまで

昭和46年から 飼育・展示を基本に

昆虫館は、県が昭和46年、青少年野外活動施設として設置し、以後38年間、内海功一館長などの努力で、地域の昆虫や水生生物の飼育展示が行われてきました。しかし、県の運営見直し

によって、平成14年度から6年間、県から町に運営が委託され、県の委託金で町が運営を行ってきました。

存続を模索するが 昨年3月で閉館

昆虫館の運営は、平成18年度から県や町、また三河地域の自治会などで協議を始めました。しかし施設の整備、専門家などの人材確保が困難であることや、厳しい財政状況などから、町での運営は難しいと判断。そのため、昆虫館が所蔵していた「平山コレクション」(昆虫学者として有名な平山修次郎さんの標本)は「ひょうご環境体験館」へ移し、昨年3月末で閉館しました。

NPO法人による 運営を決定

閉館することを知った神戸大学大学院自然科学研究科の竹田真木生教授は「子どもたちのために、昆虫館を存続させなければ」と、昆虫の専門家などに声をかけ、NPO法人設立の準備を始めました。そして昆



体験と学びを重視した施設運営を
 佐用町昆虫館 館長
 NPO法人こどもとむしの会理事長
 内藤親彦さん (神戸大名誉教授)

神戸や大阪の会員のみなさんが、何度も昆虫館に通って準備を進め、やっと今日を迎えることができました。本当にうれしく思います。

今後の昆虫館は、私たちの気持ちのこもった様々な展示に加えて、自然のなかで体験し、体験から学びを深めるような事業を展開していきます。開館日は、会員が交代で一日館長を務めますので、ぜひお子さんと一緒に、昆虫館にご来館ください。そして、昆虫や生物とのふれあいのなかで、自然の不思議さ、命の尊さを感じ取ってください。

子どもたちの憩いの場をめざしてがんばりますので、応援をお願いします。



開館式オープニング。たくさんの人たちの思いをのせてテープカット



館内で行われた開館式。庵辻町長から大江秀謙さんへ感謝状が贈られました



多くの子どもたちから愛される運営に期待
 三河地域づくり協議会 会長
 嶋本昭彦さん (下三河)

地元自治会、また三河地域づくり協議会では、かねてから昆虫館の存続を希望していました。このたび、昆虫館が新たな出発をすることに、地域住民一同、とても喜んでいきます。

専門家のかたから、船越山周辺には、ここならではの昆虫や生物がたくさんいるとお聞きしています。そんな環境を生かして、多くの子どもたちから親しまれる昆虫館の運営に、心から期待しています。そして、地域の自然や子どもたちを愛しながら、地域や子どもたちとともに昆虫館が成長していくことを心から願っています。

これから

環境教育や地域活性化に大きな期待

パネルや標本などを一新した佐用町昆虫館。今後は、地元や関係機関と連携を深め、子どもたちの環境教育の実践や、地域の活性化に向けた活動を行う

虫館をNPO法人が中心となつて運営することを町へ提案しました。

提案を受け、協議を重ねた結果、施設を県から町が譲り受け、NPO法人による運営で再出発することを決定しました。

インフォメーション

う中核施設として運営が始まります。

開館日時 4月～10月までの土・日曜・祝日で、

午前10時～午後4時

入館料 無料

本館上部記載のホームページには、子どもたちを対象にしたイベント情報が盛りだくさん。ぜひご覧ください。

お問い合わせ

昆虫館 ☎77・0103

※開館時のみ

教育委員会

☎82・2424